

旧久留米藩家老吉田家関連文書 （西健一郎氏収集資料より②）

会期：令和7年5月2日(金)～6月1日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年4月16日に寄贈された「西健一郎氏収集資料(第7次)」は、^{らんたいしつき}藍胎漆器27点と古文書類167点で構成されています。そのなかから、今月は、旧久留米藩家老吉田家に関する文書4点を、前期(5月2日～16日)と後期(17日～6月1日)に分けて紹介します。

吉田家は、初代久留米藩主^{ありまとようじ}有馬豊氏の頃から、代々有馬家の家老^{こくろう}(国老)を勤めた家系です。家老となった者は、有馬家より有馬姓を名乗ることを許されました。今回は、明治時代の吉田(有馬)家宛ての手紙や、日用品等を購入した際の領収証を紹介します。

●No.1 書簡

明治36年(1903)7月25日

差出人の^{ほそかわただよし}細川忠穀とその子^{ただお}忠雄は、^{ないぜんけ}細川内膳家(肥後細川家初代 ^{ただおき}細川忠興の長男である^{ただたか}忠隆を祖とする)の人です。書状には、吉田家の安泰を喜ぶ時候の挨拶に続き、元長と篤太郎の体を気遣う言葉が書かれています。

なお、同資料群内の元長宛ての書簡文中に、忠穀の名が見えるものがあります。

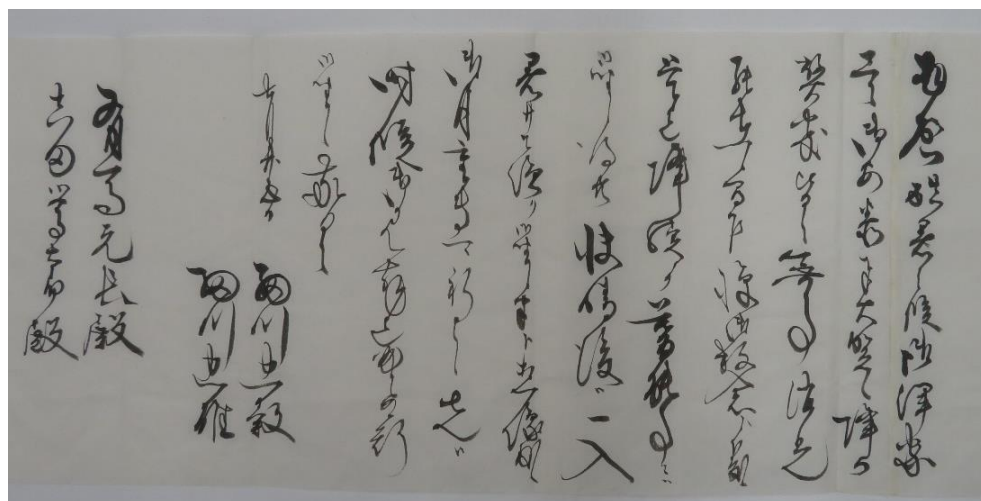
^{ありまもとなが}有馬元長と^{よしだとくたろう}吉田篤太郎

有馬元長(1842～1903)は、藩政時代は国老職を勤め、明治2年(1869)の^{はんせきほうかん}版籍奉還から、同4年(1871)の^{ごんのだいさんじ}廃藩置県までは、久留米藩の^{ちやくなん}権大参事を勤めました。同6年(1873)、久留米初の銀行類似会社である^{ゆうづう}融通会社を設立し、同11年(1878)には第六十一国立銀行を設立して同行の頭取となりました。

吉田篤太郎(?～1919)は有馬元長の^{ありまひでお}嫡男です。第六十一国立銀行の取締役や頭取を務めた有馬秀雄(1869～1954)の補佐をする傍ら、能書家としても活躍しました。

釈文(本文部分)

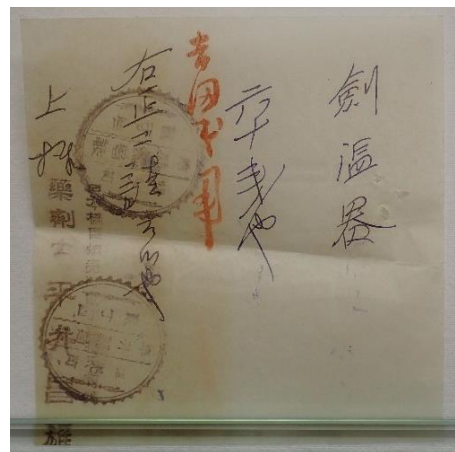
拝啓、酷暑之候、御渾家
益御安泰奉大賀候、降而
弊家皆々無事消光
罷在候間、乍憚御放念被下度候、
是迄降続ク暮能事ニハ
御座候得共、快晴後ハ一入
暑サも強リ御座候半ト想像致候、
御自重専一二祈申候、先ハ
時候御見舞迄勿々如斯
御座候、敬具



●No.2 領収証

明治時代～昭和戦前期

東京市日本橋区(現東京都中央区日本橋)の薬剤師が発行した領収証で、「剣温器」(検温器)が六十銭で購入されたことが分かります。領収証の宛名は上様ですが、紙面には「吉田氏用」とあります。この検温器は、吉田家で使うために購入されたもののようです。



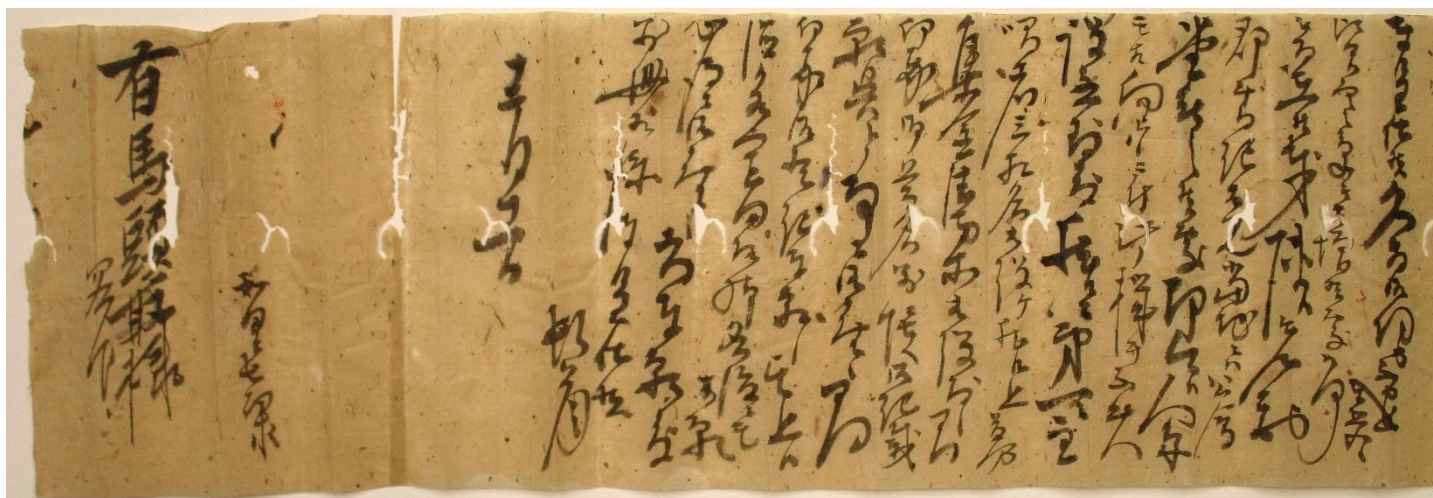
●No.3 書簡

12月11日(明治時代)

和田という人物が有馬頭取(元長)に宛てた、公会堂の設立願いです。和田氏は、「當(当)地」(筑後地方周辺か)に活気が出てきたこの機会を逃さず、公会堂を設立したいとの思いを表明しています。また、設立に向けて、主唱者を30名集め、資金調達を行うという具体的な動きを提案しています。

釈文(本文主要部分)

(前略、右から4行目途中)當地ニハ公會堂無之候處、即今ハ人氣モ相向ヒ候ニ付、此ノ機ヲ不失設立致度、然ルニ第一ニ主唱者三拾名相設ケ、然ル上募集金請所相設度候間、何卒御尊名前帳へ御記載願吳トノ事ニ御座候(以下略)



●No.4 領収証

明治42年(1909)6月9日

東京市日本橋区(現東京都中央区日本橋)の牛肉問屋「近江屋商店」が発行した領収証で、牛ロースが「金五十銭」で購入されたことが分かります。吉田家は日常的にこの問屋を利用していたようで、紙面左端には朱書きで「吉田氏御用」とあります。

